科目ナンバリング	U-LAS02 10004 LJ35						
授業科目名<英訳>	音楽芸術論II Theory of Musical Art II			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 嶋田　久美		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

音楽を「コミュニケーション」の観点から捉える。人びとは、演奏することや聴くことを通して、何らかのコミュニケーションを生み出す。その際、音楽は何をどのように伝えるのだろうか。また、音楽を実践する主体はどのように捉えられるだろうか。本講義では、主に２０世紀に活躍した音楽家、社会活動家、療法家らの音楽思想を辿ることで、音楽的なコミュニケーションの特性を捉える。

音楽家としては、既存の音楽の枠組みを押し広げることで教育や社会福祉など他領域に影響を及ぼした人物を取り上げ、音楽以外の実践家としては、その思想に音楽が重要な位置を占めている人物を取り上げる。

[到達目標]

音楽的なコミュニケーションの特性について、同時代に生きた音楽、教育、医療福祉分野の実践家の思考を通して複層的に理解する。また、音楽という行為が現代の社会福祉的な事例とどのように関連しているかを知る。そのうえで、「音楽とコミュニケーション」というテーマについて、自身の音楽体験とのつながりを考え、論述する力を身につける。

[授業計画と内容]

「音楽とコミュニケーション」というテーマについて概説したのち、以下の人物らについて、それぞれ２～４回の講義を行う。（授業回数はフィードバックを含め全１５回とする）

１．ポール・ノードフ（1909-1977）　アメリカ・作曲家
２．フェリックス・ガタリ（1930-1992）　フランス・精神分析家
３．デレク・ベイリー（1930-2005）　イギリス・即興演奏家
４．オリバー・サックス（1933-2015）　イギリス・神経学者

[履修要件]

・初回にガイダンスを行うので、履修予定者は出席すること
・音楽芸術論Ｉ（前期）との連続した履修を推奨する

[成績評価の方法・観点]

・リアクションペーパー（４０%）、および期末レポート（６０%）
・１０回以上の出席を必須とする

[教科書]

授業内で適宜資料を配付する

音楽芸術論II(2)へ続く↓↓↓

音楽芸術論II(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

配付資料と参考文献、および自身のノートを活用し、前回までの講義の流れを振り返っておくこと。授業内で実際に音楽を聴くための時間は限られるため、各自でできるだけそれを補うことが望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]